

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2020年10月27日

No.7

コロナ禍であるが収入は右肩上がり であり、回復基調にあるのであれば 年末手当で組合員の奮闘に応えよ！！

～2020年度 年末手当第2回交渉報告～

中央本部は本日、第2回交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受け、協議を行ないました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. 9月期のコンテナ輸送は、新型コロナウイルス感染症による需要低迷や台風10号の影響により、エコ関連物資、積合せ貨物、自動車部品以外の全ての項目で計画を下回った。一方、自動車部品は需要が回復軌道に戻りつつあるほか、積合せ貨物がモーダルシフトの進展等で堅調に推移し、コンテナ全体では対計画△2億5千万円（97.5%）となった。
2. 9月期の車扱輸送は、石油の国内需要が外出自粛により低迷した一方、月初に仕切値高騰により買い溜めによる発送増があり計画を上回った。車扱全体で対計画+2千7百万円（102.8%）となった。9月期の収入全体の合計は対計画△2億2千2百万円（98.0%）である。
3. 上半期のコンテナ収入動向は、新型コロナウイルス感染症による景気低迷の影響を受け、積合せ貨物およびエコ関連物資を除く全ての品目で計画を大きく下回った。5月期に輸送量が△21%まで落ち込み、9月期には△10%と11ポイント回復してきているが、本来の実力からは8～9%不足している。
4. 一昨年に実施した運賃改定効果が一巡して10%改定の効果として1～2%ほど収入がプラスに働いている。年末需要にむけて輸送量の確保の準備は行なっているが、今後の見通しはコロナの状況に影響されるところが大きい。

【事業開発部門】

1. 鉄道事業は、2022年8月に竣工予定の東京レールゲートEASTの着工にむけて準備を進めている。また、並行して札幌貨物ターミナル駅に建設中のDPL札幌レールゲートについても2022年度の竣工にむけて準備を進めていく。
2. 関連事業は、2019年度はマンション等の分譲収入があったが、今年度はその反動で減収となったほか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け「天神ゆの華」が約2カ月間休業し減収している。今後、新規案件の拡大や既存物件の賃料維持をはかることで計画の達成にむけて取り組んでいく。
3. 商業テナントを中心に、新型コロナウイルス感染拡大防止の休業を理由としたテナント料の減額要請が来ている。関連事業は例年より少なめだが、中里社宅のリノベーション物件の賃貸にむけた営業や、駅構内で利用可能な土地などを貸すことで収入を確保していく。

会社の収入動向の説明に対して中央本部は、秋冬繁忙期を含めて10月期改定計画は右肩上がりを計画している。会社は組合員のがんばりを評価し、組合員の声に応えるよう次回の交渉で要求の根拠を示すので誠意ある回答を示すよう主張しました。

これに対し会社は、肥薩おれんじ鉄道が不通となり代行輸送や代行トラック誘導などの作業を行なっていた。今後の収入動向を見極めて社員のがんばりに応えられるよう、回答指定日にむけて真摯に交渉を行なっていきたいとの考え方を示したことを確認し、第2回交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は10月30日（金曜日）です。